

高津区区民生活に関わるニーズ調査 概要版



調査の概要

- 調査目的 高津区の次年度以降の事業計画等において、区民ニーズ、必要性及び緊急性が高い課題等に対応する事業を効果的・重点的に実施するため、「区民がどのような施策・事業を執行してほしいと思っているのか」、「高津区で実施している施策・事業が区民にどのように評価されているか」等を調査・分析するために実施した。
- 調査地域 川崎市高津区全域
- 調査対象 川崎市高津区在住の満18歳以上の男女個人（外国人を含む。）
- 標本数 2,000
- 抽出方法 令和2年8月末現在の住民基本台帳から層化二段無作為抽出
- 調査方法 郵送配布・郵送回収法
- 調査期間 令和2年10月1日～10月31日
- 調査委託機関 株式会社エスピー研
- 回収結果 有効回収数1,080（有効回収率 54.0%）
- 概要版の見方 この概要版の図中のnとは、設問に対する回答者数で、比率算出の基数を示す。回答の比率（%）はnを基数として算出し、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを示した。従って、それぞれの回答の比率を足し上げた値とは異なる場合がある。



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市



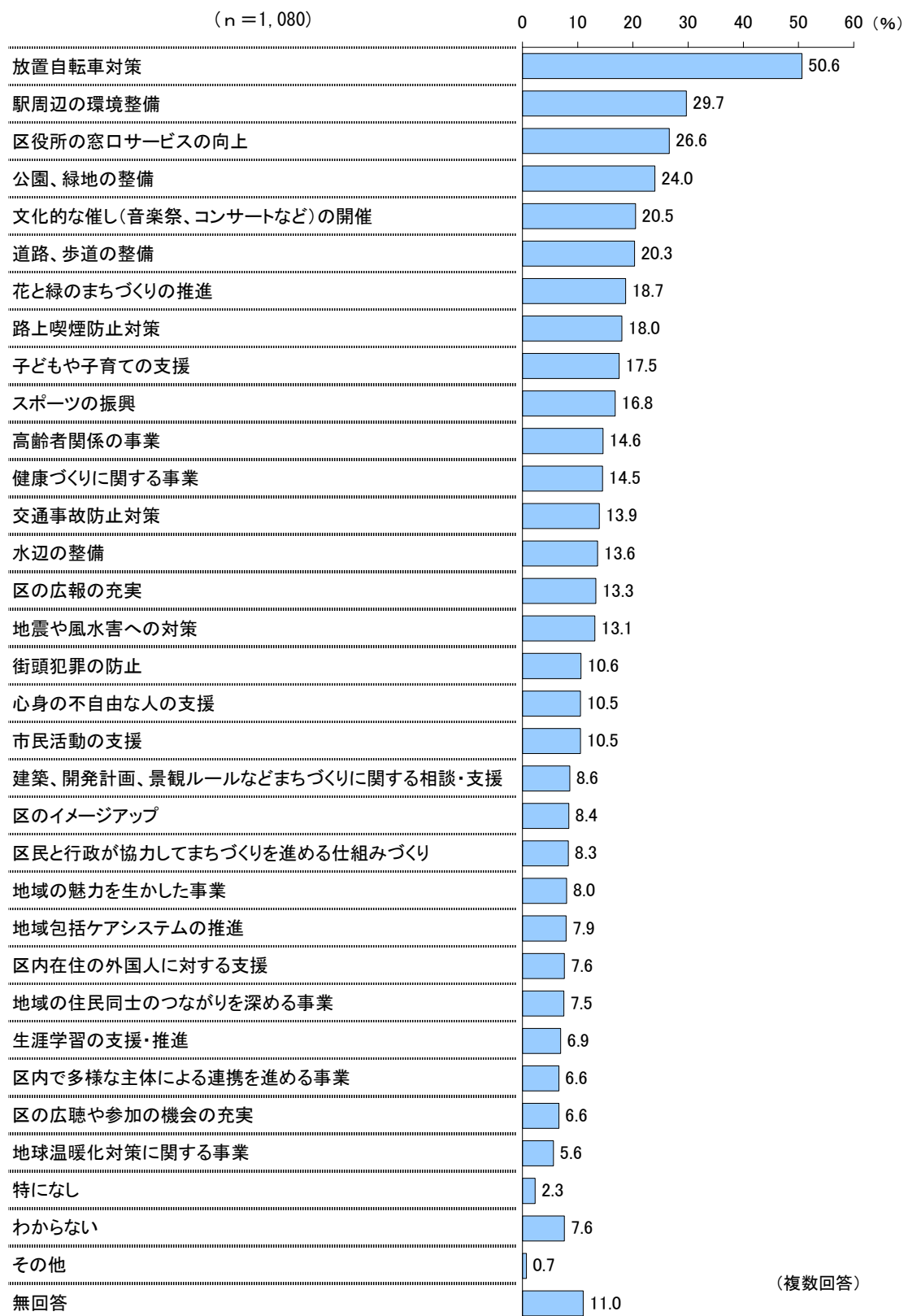
高津区

川崎市高津区役所まちづくり推進部企画課
〒213-8570 川崎市高津区下作延2-8-1
TEL 044-861-3131

区の施策について

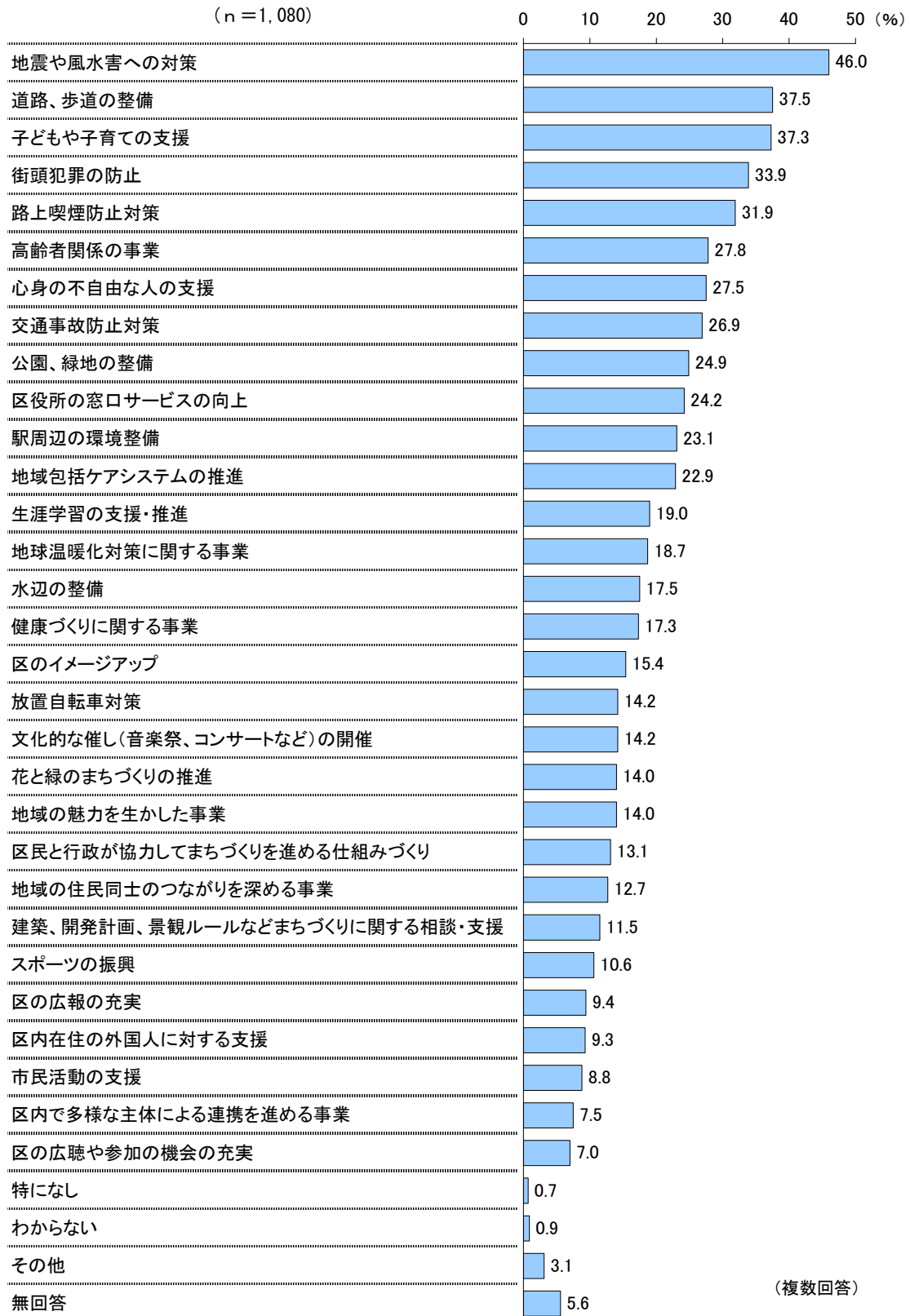
区役所業務の評価

評価をみると、「放置自転車対策」(50.6%)が約5割で最も高く、次いで「駅周辺の環境整備」(29.7%)、「区役所の窓口サービスの向上」(26.6%)、「公園、緑地の整備」(24.0%)となっている。(報告書P15)



区役所業務への要望

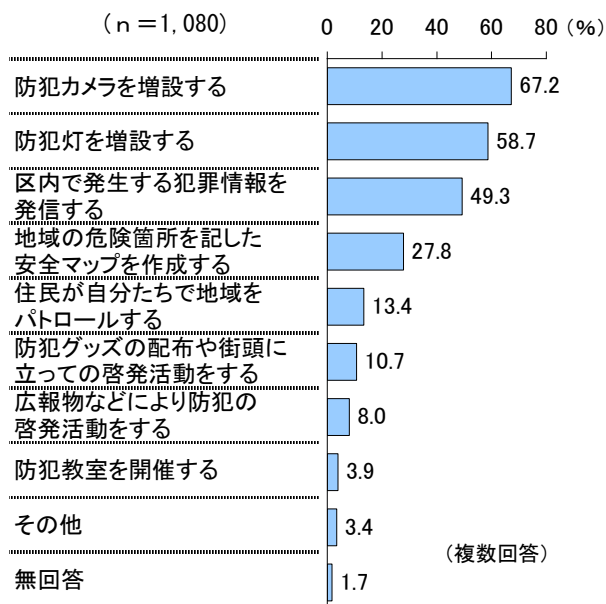
要望をみると、「地震や風水害への対策」(46.0%)が4割半ばで最も高く、次いで「道路、歩道の整備」(37.5%)、「子どもや子育ての支援」(37.3%)、「街頭犯罪の防止」(33.9%)となっている。(報告書P18)



区の施策の手法

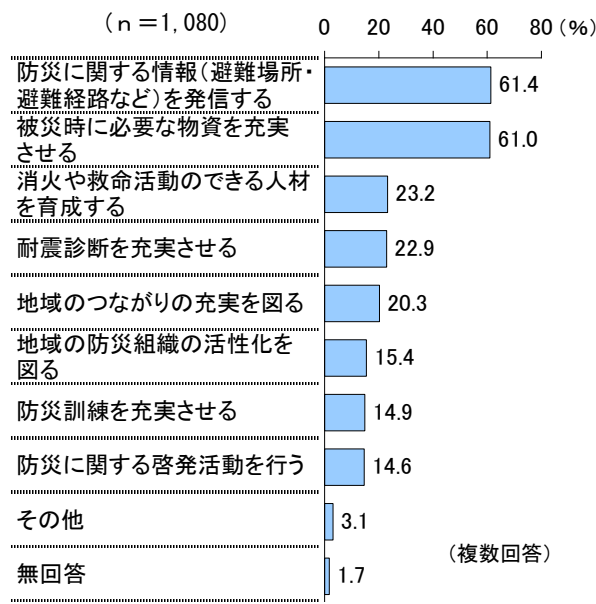
街の安全を守るための対策

「防犯カメラを増設する」(67.2%)が7割近くで最も高く、次いで「防犯灯を増設する」(58.7%)、「区内で発生する犯罪情報を発信する」(49.3%)、「地域の危険箇所を記した安全マップを作成する」(27.8%)となっている。(報告書P24)



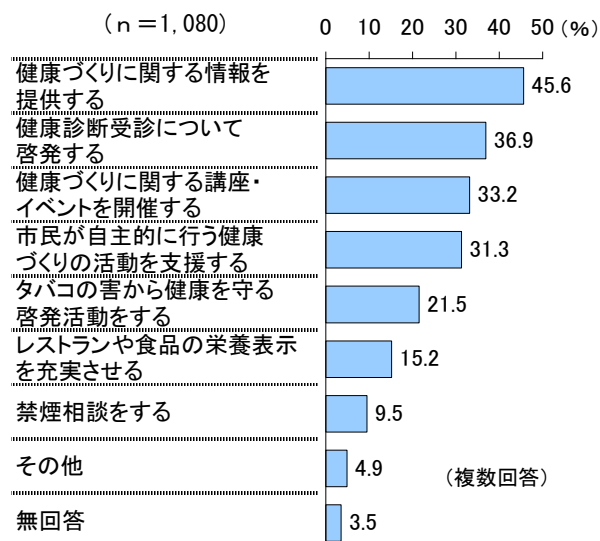
地震や風水害対策

「防災に関する情報(避難場所・避難経路など)を発信する」(61.4%)が6割を超えて最も高く、次いで「被災時に必要な物資を充実させる」(61.0%)、「消火や救命活動のできる人材を育成する」(23.2%)、「耐震診断を充実させる」(22.9%)となっている。(報告書P27)



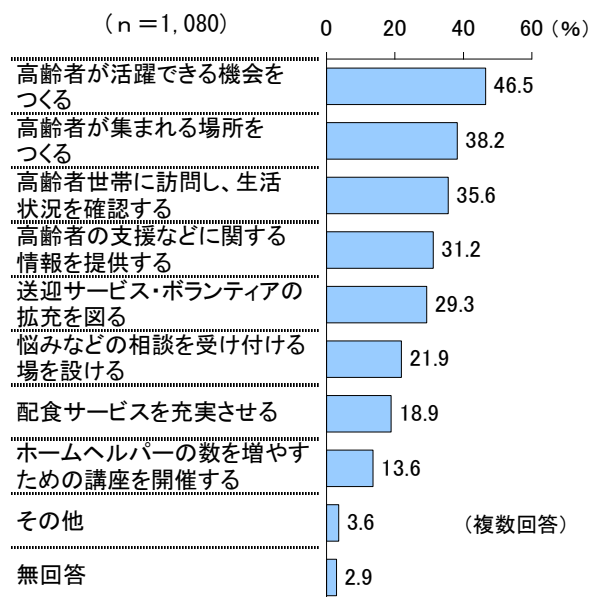
健康推進

「健康づくりに関する情報を提供する」(45.6%)が4割半ばで最も高く、次いで「健康診断受診について啓発する」(36.9%)、「健康づくりに関する講座・イベントを開催する」(33.2%)、「市民が自主的に行う健康づくりの活動を支援する」(31.3%)となっている。(報告書P31)



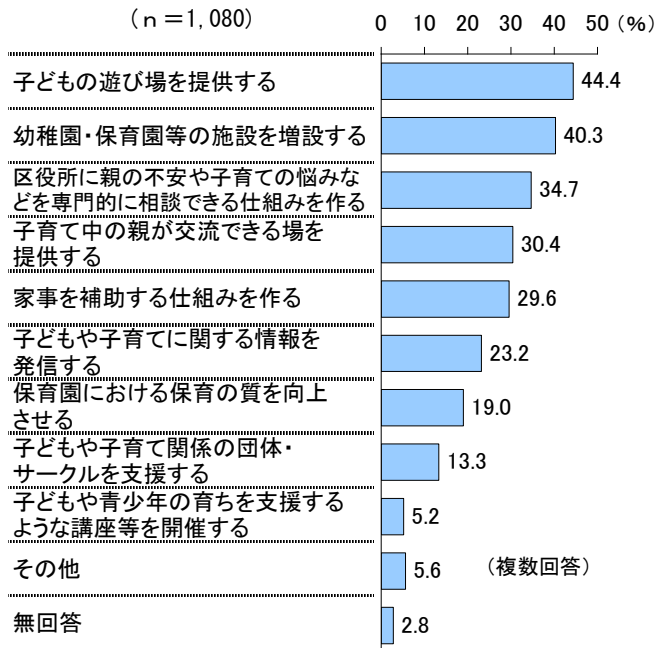
高齢者支援

「高齢者が活躍できる機会をつくる」(46.5%)が5割近くで最も高く、次いで「高齢者が集まれる場所をつくる」(38.2%)、「高齢者世帯に訪問し、生活状況を確認する」(35.6%)、「高齢者の支援などに関する情報を提供する」(31.2%)となっている。(報告書P34)



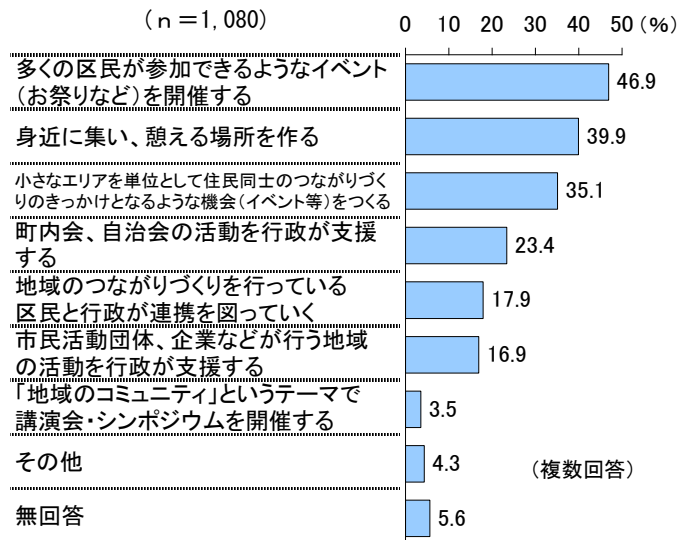
子育て支援

「子どもの遊び場を提供する」(44.4%)が4割半ばで最も高く、次いで「幼稚園・保育園等の施設を増設する」(40.3%)、「区役所に親の不安や子育ての悩みなどを専門的に相談できる仕組みを作る」(34.7%)、「子育て中の親が交流できる場を提供する」(30.4%)となっている。(報告書P37)



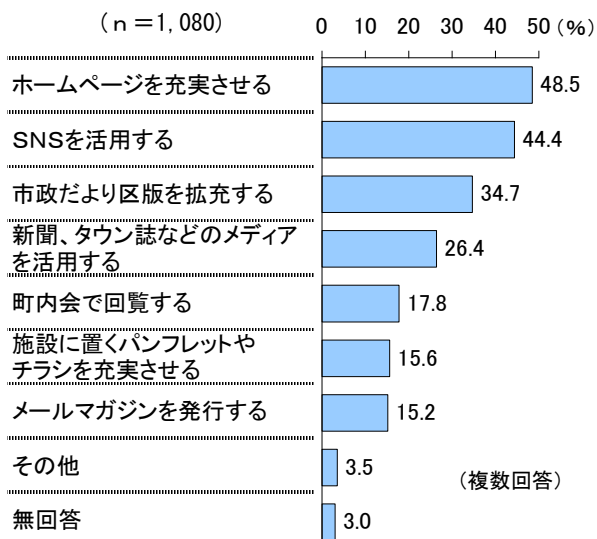
地域住民のつながりを深める手法

「多くの区民が参加できるようなイベント(お祭りなど)を開催する」(46.9%)が5割近くで最も高く、次いで「身近に集い、憩える場所を作る」(39.9%)、「小さなエリアを単位として住民同士のつながりづくりのきっかけとなるような機会(イベント等)をつくる」(35.1%)、「町内会、自治会の活動を行政が支援する」(23.4%)となっている。(報告書P40)



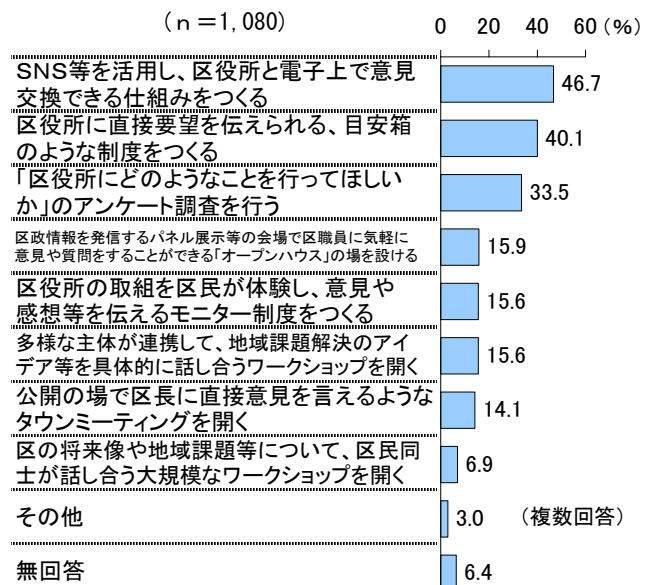
区の情報提供

「ホームページを充実させる」(48.5%)が5割近くで最も高く、次いで「SNSを活用する」(44.4%)、「市政だより区版を拡充する」(34.7%)、「新聞、タウン誌などのメディアを活用する」(26.4%)となっている。(報告書P46)



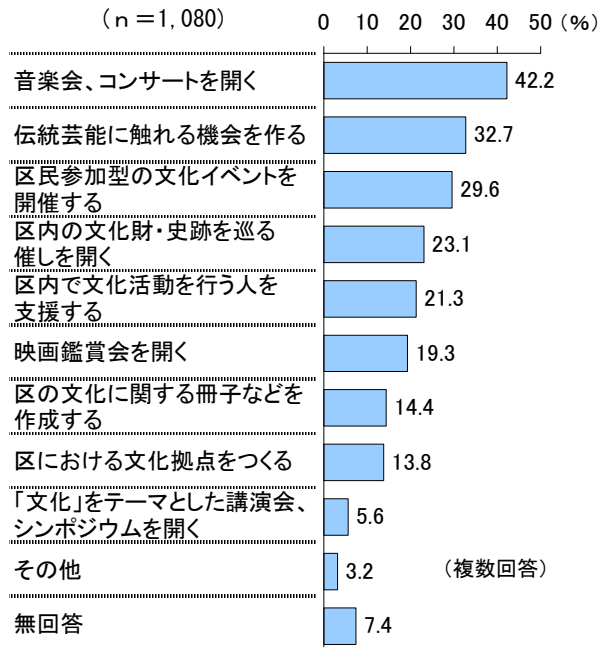
区民の意見を区政に反映するための手法

「SNS等を活用し、区役所と電子上で意見交換できる仕組みをつくる」(46.7%)が5割近くで最も高く、次いで「区役所に直接要望を伝えられる、目安箱のような制度をつくる」(40.1%)、「『区役所にどのようなことを行ってほしいか』のアンケート調査を行う」(33.5%)、「区政情報を発信するパネル展示等の会場で区職員に気軽に意見や質問をすることができる『オープンハウス』の場を設ける」(15.9%)となっている。(報告書P49)



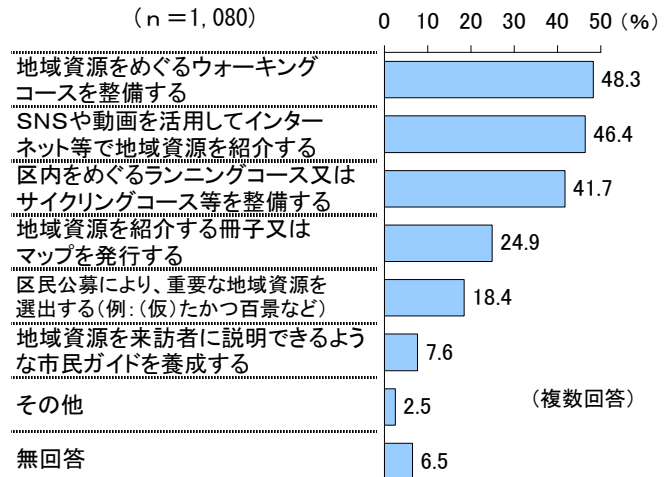
区の文化の振興

「音楽会、コンサートを開く」(42.2%)が4割を超えて最も高く、次いで「伝統芸能に触れる機会を作る」(32.7%)、「区民参加型の文化イベントを開催する」(29.6%)、「区内の文化財・史跡を巡る催しを開く」(23.1%)となっている。(報告書P54)



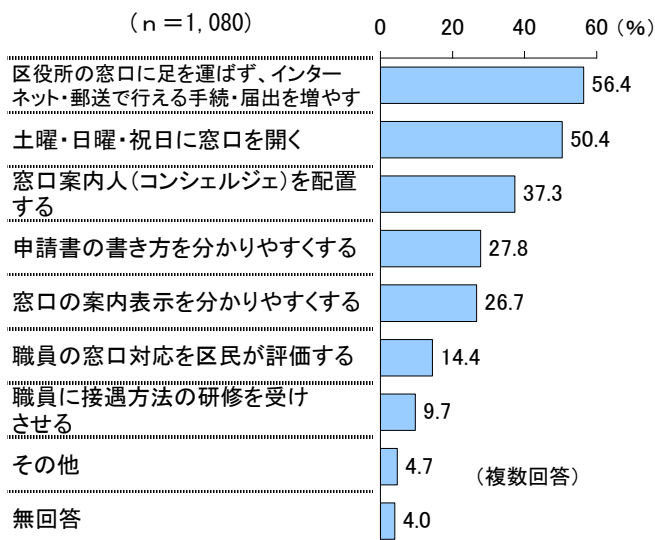
区の地域資源の魅力の効果的な発信

「地域資源をめぐるウォーキングコースを整備する」(48.3%)が5割近くで最も高く、次いで「SNSや動画を活用してインターネット等で地域資源を紹介する」(46.4%)、「区内をめぐるランニングコース又はサイクリングコース等を整備する」(41.7%)、「地域資源を紹介する冊子又はマップを発行する」(24.9%)となっている。(報告書P60)



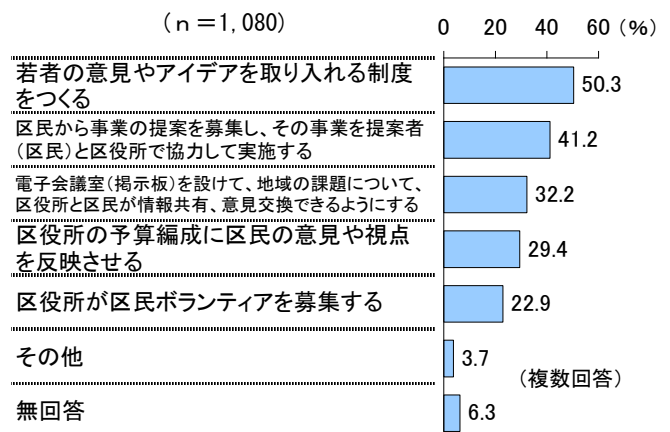
区役所の窓口サービス向上

「区役所の窓口で足を運ばず、インターネット・郵送で行える手続・届出を増やす」(56.4%)が5割半ばで最も高く、次いで「土曜・日曜・祝日に窓口を開く」(50.4%)、「窓口案内人(コンシェルジュ)を配置する」(37.3%)、「申請書の書き方を分かりやすくする」(27.8%)となっている。(報告書P62)



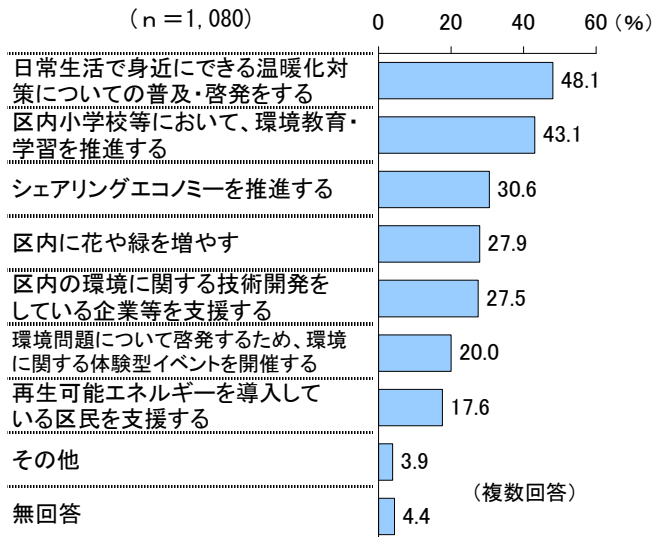
区民と行政が協力してまちづくりを進める仕組み

「若者の意見やアイデアを取り入れる制度をつくる」(50.3%)が5割で最も高く、次いで「区民から事業の提案を募集し、その事業を提案者(区民)と区役所で協力して実施する」(41.2%)、「電子会議室(掲示板)を設けて、地域の課題について、区役所と区民が情報共有、意見交換できるようにする」(32.2%)、「区役所の予算編成に区民の意見や視点を反映させる」(29.4%)となっている。(報告書P65)



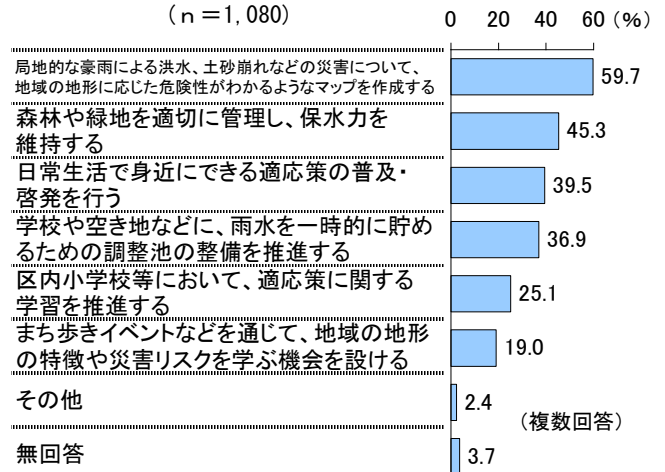
地域の地球温暖化緩和策

「日常生活で身近にできる温暖化対策についての普及・啓発をする」(48.1%)が5割近くで最も高く、次いで「区内小学校等において、環境教育・学習を推進する」(43.1%)、「シェアリングエコノミーを推進する」(30.6%)、「区内に花や緑を増やす」(27.9%)となっている。(報告書P68)



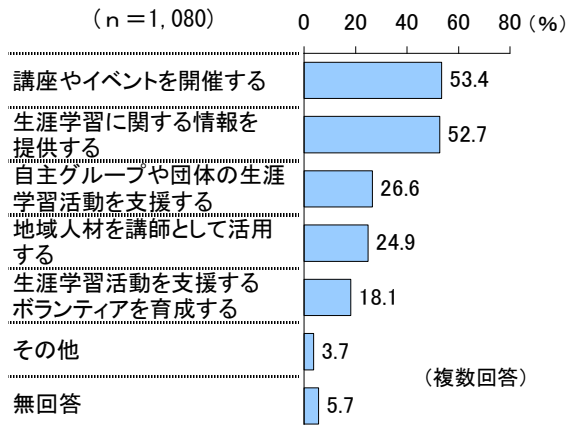
地球温暖化に伴う自然災害への適応策

「局地的な豪雨による洪水、土砂崩れなどの災害について、地域の地形に応じた危険性がわかるようなマップを作成する」(59.7%)が6割で最も高く、次いで「森林や緑地を適切に管理し、保水力を維持する」(45.3%)、「日常生活で身近にできる適応策の普及・啓発を行う」(39.5%)、「学校や空き地などに、雨水を一時的に貯めるための調整池の整備を推進する」(36.9%)となっている。(報告書P70)



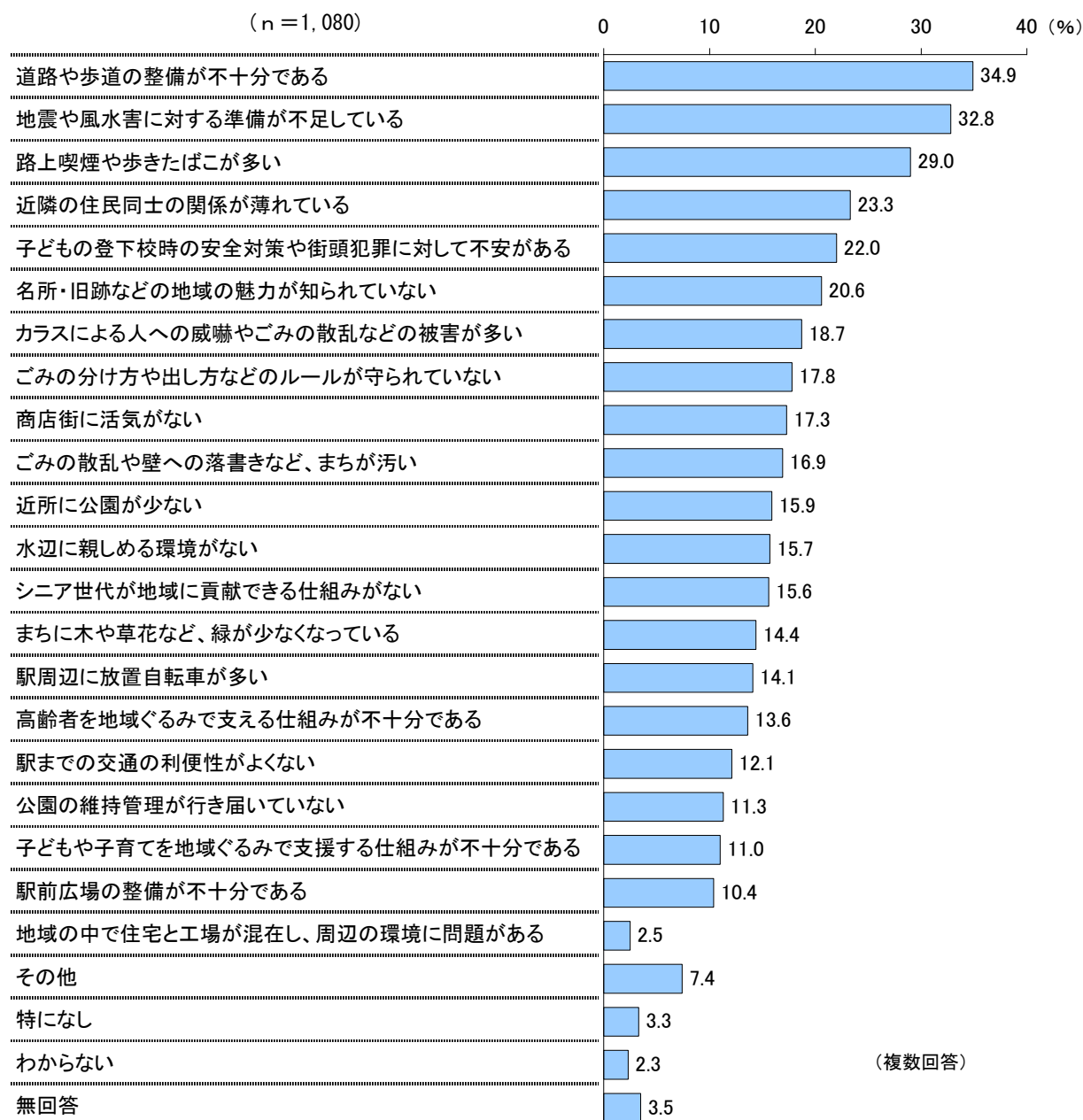
生涯学習の支援や推進

「講座やイベントを開催する」(53.4%)が5割を超えて最も高く、次いで「生涯学習に関する情報を提供する」(52.7%)、「自主グループや団体の生涯学習活動を支援する」(26.6%)、「地域人材を講師として活用する」(24.9%)となっている。(報告書P74)



まちの課題・問題点

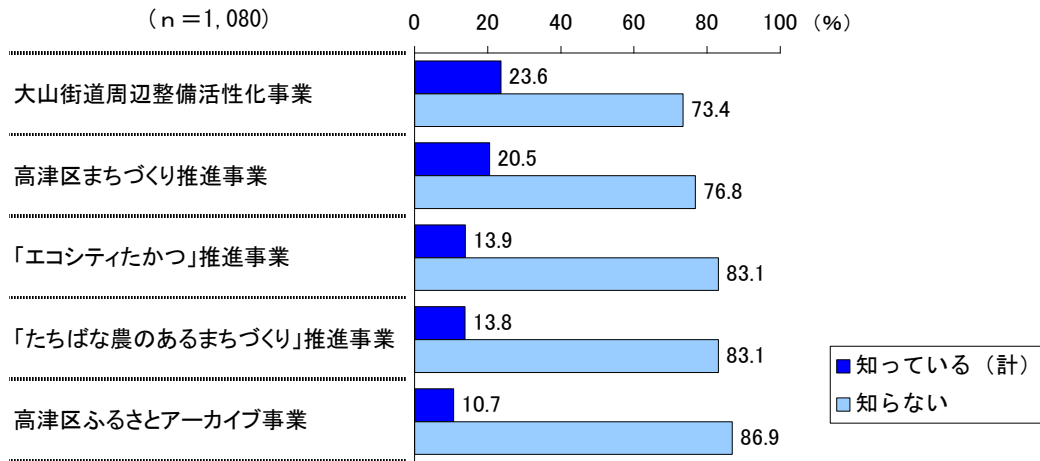
「道路や歩道の整備が不十分である」(34.9%)が3割半ばで最も高く、次いで「地震や風水害に対する準備が不足している」(32.8%)、「路上喫煙や歩きタバコが多い」(29.0%)、「近隣の住民同士の関係が薄れている」(23.3%)となっている。(報告書P76)



区の事業について

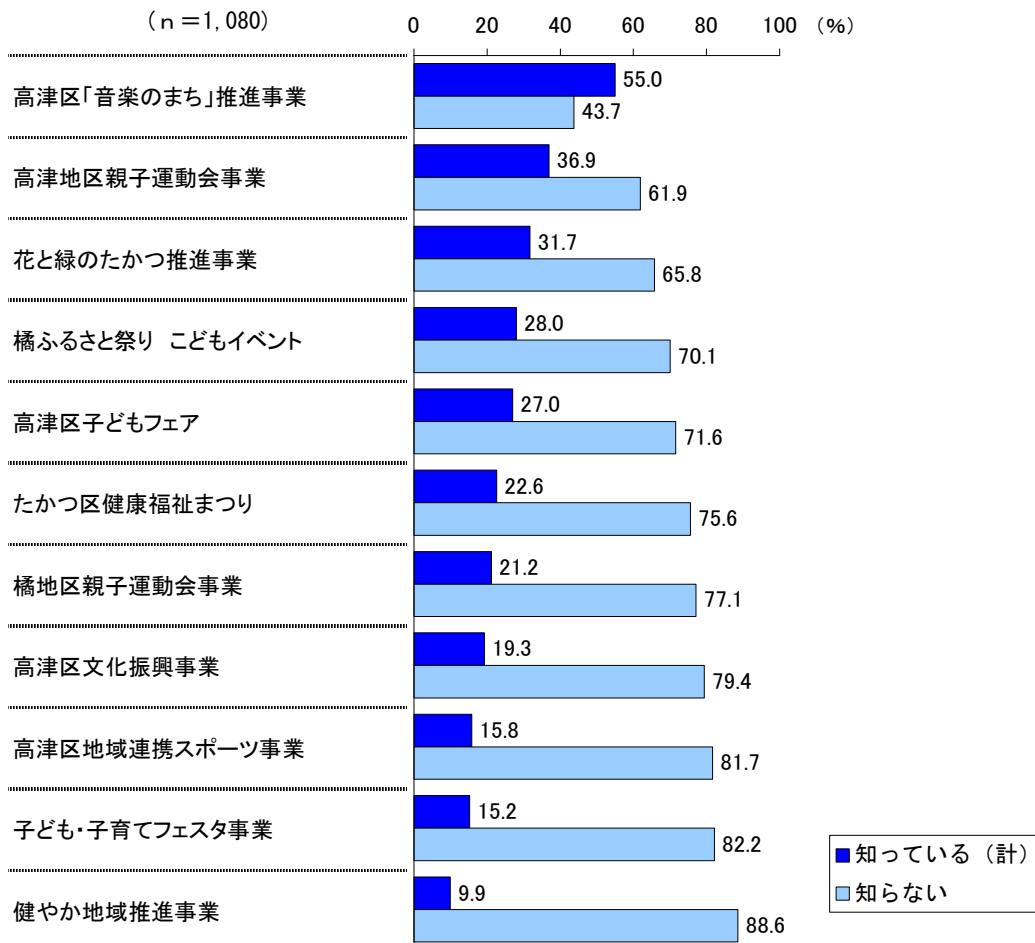
各事業の認知度

「内容まで知っている」と「聞いたことはある（あることは知っている）」を合わせた『知っている（計）』は、【大山街道周辺整備活性化事業】が23.6%で最も高く、次いで【高津区まちづくり推進事業】が20.5%、【「エコシティたかつ」推進事業】が13.9%となっている。（報告書P81～P82）



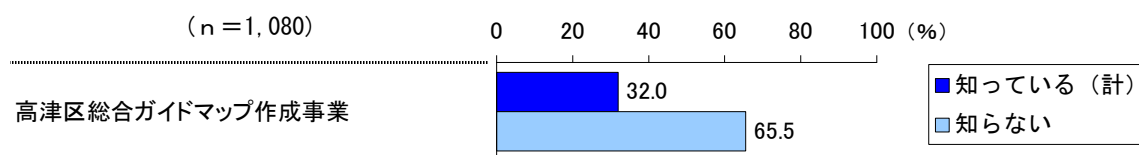
各事業への参加状況

「参加したことがある」と「知っているが参加したことはない」を合わせた『知っている（計）』は、【高津区「音楽のまち」推進事業】が55.0%で最も高く、次いで【高津地区親子運動会事業】が36.9%、【花と緑のたかつ推進事業】が31.7%となっている。（報告書P88～P91）

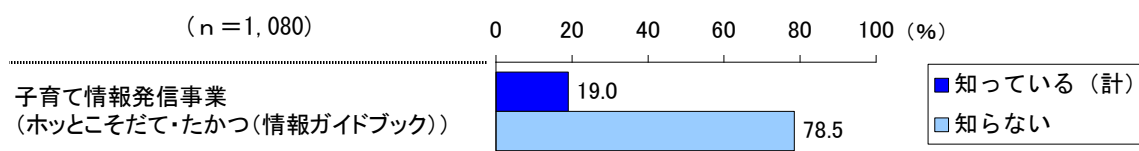


各広報媒体等の閲覧状況

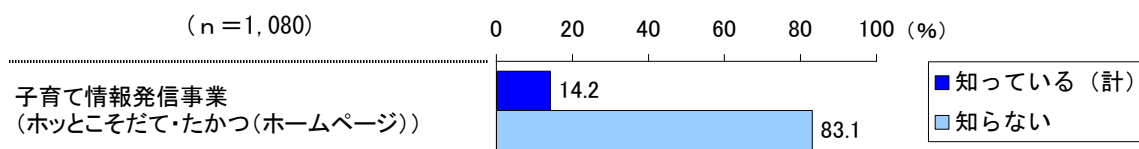
【高津区総合ガイドマップ作成事業】について、「読んだことがある」と「あることは知っている」を合わせた『知っている（計）』は32.0%となっている。（報告書P103）



【子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（情報ガイドブック））】について、「読んだことがある」と「知っているが読んだことはない」を合わせた『知っている（計）』は19.0%となっている。（報告書P103）



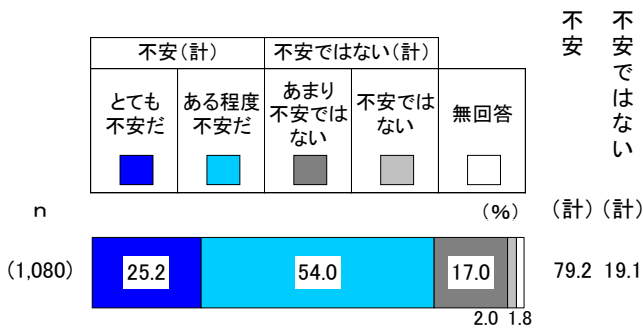
【子育て情報発信事業（ホッとこそだて・たかつ（ホームページ））】について、「見たことがある」と「知っているが見たことはない」を合わせた『知っている（計）』は14.2%となっている。（報告書P103）



地域防災について

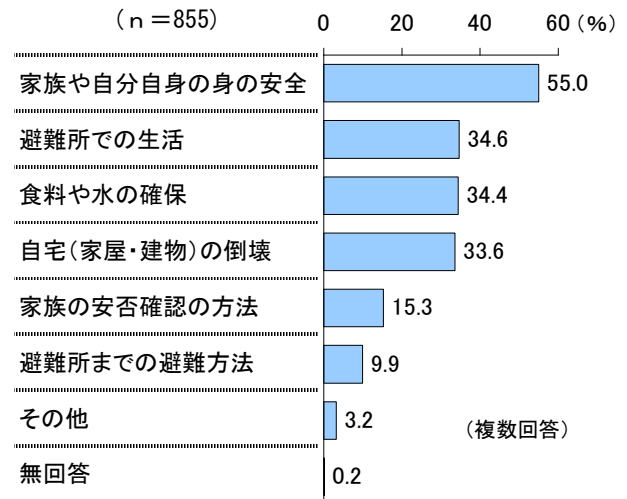
大規模地震発生時の「不安度」

「とても不安だ」(25.2%)と「ある程度不安だ」(54.0%)を合わせた『不安(計)』(79.2%)は約8割となっている。一方、「あまり不安ではない」(17.0%)と「不安ではない」(2.0%)を合わせた『不安ではない(計)』(19.1%)は約2割となっている。(報告書P107)



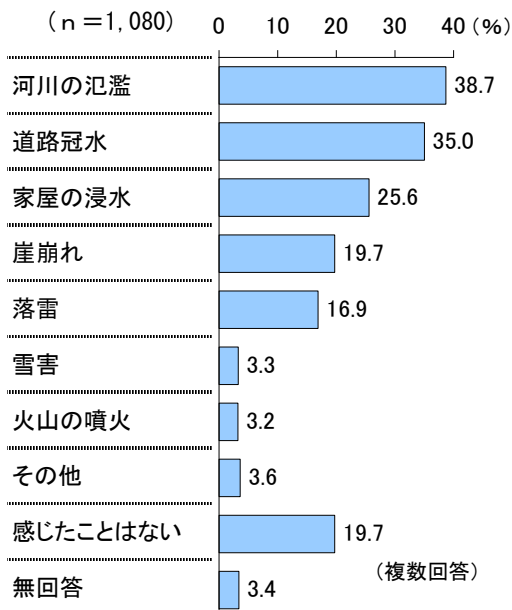
大規模地震発生時の「不安内容」

「家族や自分自身の身の安全」(55.0%)が5割半ばで最も高く、次いで「避難所での生活」(34.6%)、「食料や水の確保」(34.4%)、「自宅(家屋・建物)の倒壊」(33.6%)となっている。(報告書P112)



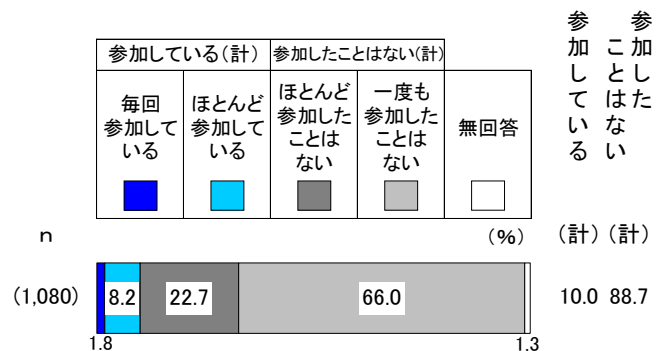
災害に対する不安

「河川の氾濫」(38.7%)が4割近くで最も高く、次いで「道路冠水」(35.0%)、「家屋の浸水」(25.6%)、「崖崩れ」(19.7%)となっている。一方、「感じたことはない」(19.7%)は2割となっている。(報告書P115)



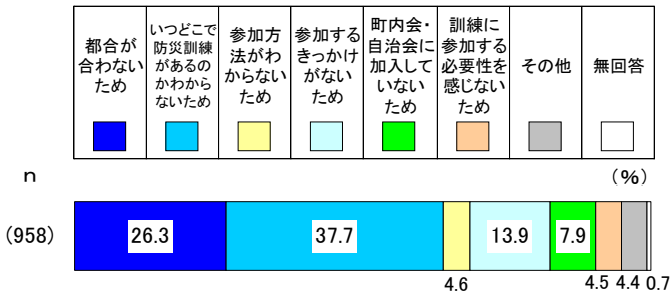
町内会・自治会等主催の防災訓練参加有無

「毎回参加している」(1.8%)と「ほとんど参加している」(8.2%)を合わせた『参加している(計)』(10.0%)は1割となっている。一方、「ほとんど参加したことはない」(22.7%)と「一度も参加したことはない」(66.0%)を合わせた『参加したことはない(計)』(88.7%)は9割近くとなっている。(報告書P119)



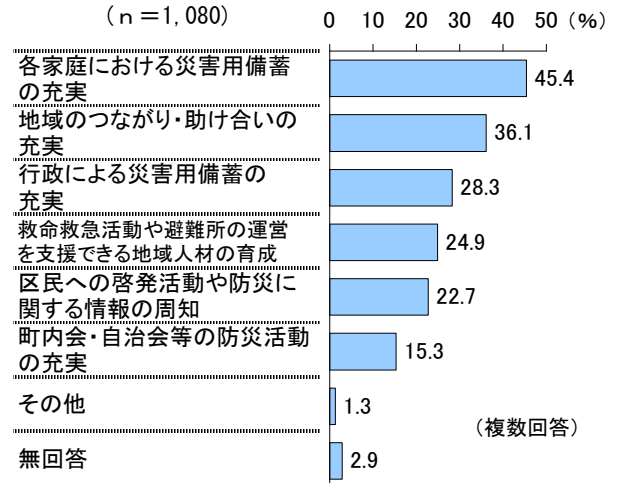
町内会・自治会等主催の防災訓練に参加しない理由

「いつどこで防災訓練があるのかわからないため」(37.7%)が4割近くで最も高く、次いで「都合が合わないため」(26.3%)、「参加するきっかけがないため」(13.9%)、「町内会・自治会に加入していないため」(7.9%)となっている。(報告書P124)



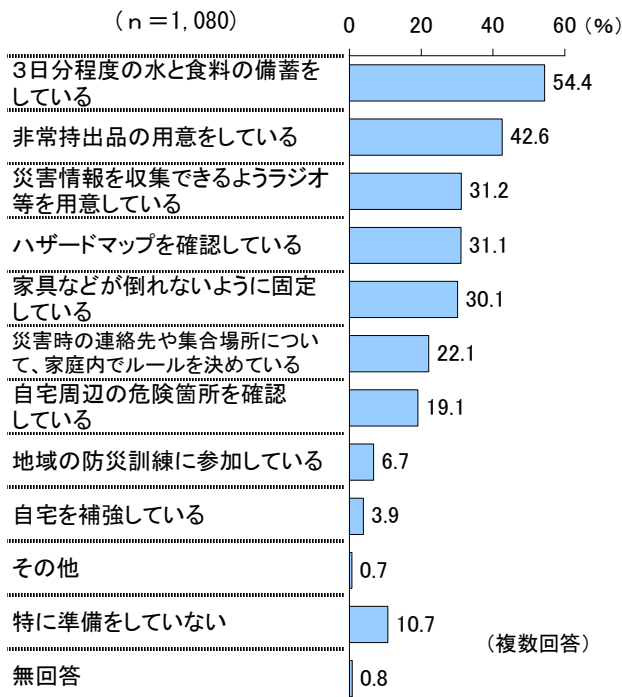
防災力を高めるために必要なこと

「各家庭における災害用備蓄の充実」(45.4%)が4割半ばで最も高く、次いで「地域のつながり・助け合いの充実」(36.1%)、「行政による災害用備蓄の充実」(28.3%)、「救命救急活動や避難所の運営を支援できる地域人材の育成」(24.9%)となっている。(報告書P129)



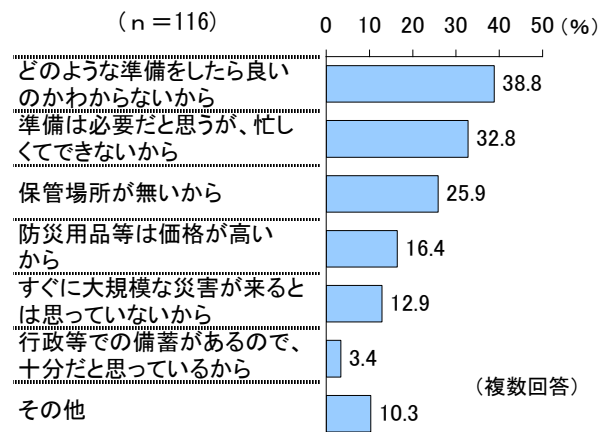
大規模災害発生への備え

「3日分程度の水と食料の備蓄をしている」(54.4%)が5割半ばで最も高く、次いで「非常持出品の用意をしている」(42.6%)、「災害情報を収集できるようラジオ等を用意している」(31.2%)、「ハザードマップを確認している」(31.1%)となっている。(報告書P131)



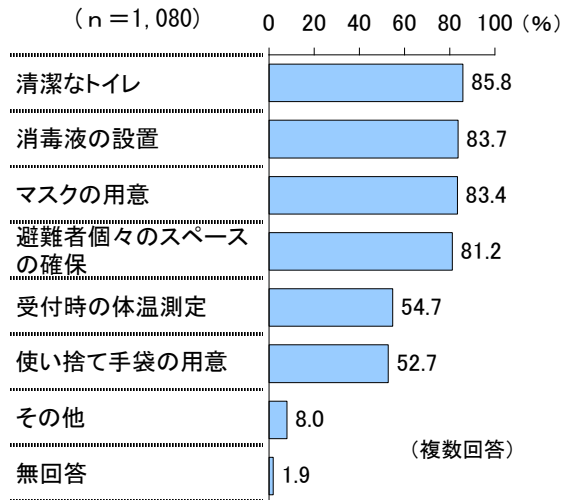
大規模災害発生に備え、特に準備をしていない理由

「どのような準備をしたら良いかわからないから」(38.8%)が4割近くで最も高く、次いで「準備は必要だと思うが、忙しくてできないから」(32.8%)、「保管場所が無いから」(25.9%)、「防災用品等は価格が高いから」(16.4%)となっている。(報告書P135)



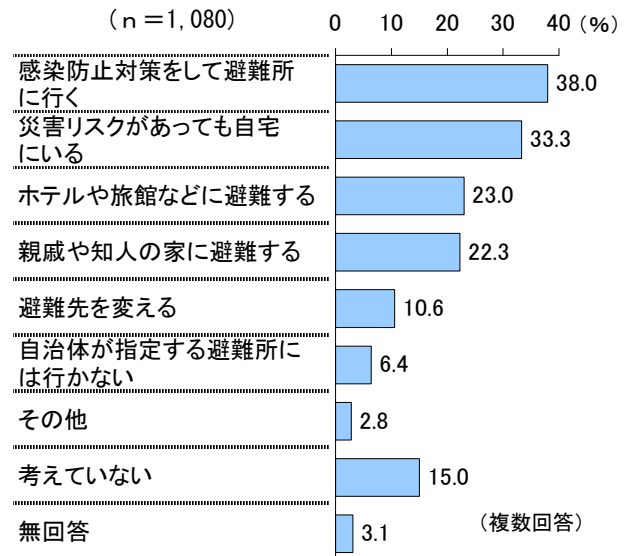
避難所における感染症対策

「清潔なトイレ」(85.8%)が8割半ばで最も高く、次いで「消毒液の設置」(83.7%)、「マスクの用意」(83.4%)、「避難者個々のスペースの確保」(81.2%)となっている。(報告書P139)



避難所における感染症拡大予防のため避難方法について検討していること

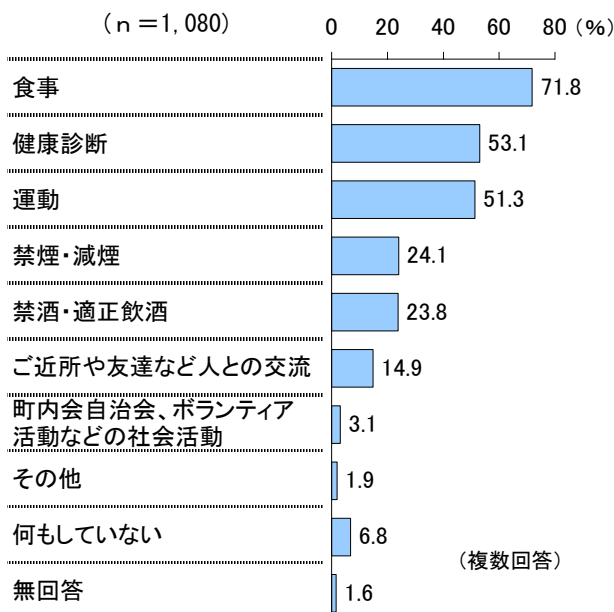
「感染防止対策をして避難所に行く」(38.0%)が4割近くで最も高く、次いで「災害リスクがあっても自宅にいる」(33.3%)、「ホテルや旅館などに避難する」(23.0%)、「親戚や知人の家に避難する」(22.3%)となっている。(報告書P141)



自身の健康について

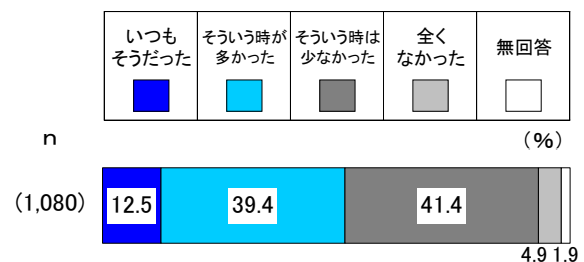
健康のために気をつけていること

「食事」(71.8%)が7割を超えて最も高く、次いで「健康診断」(53.1%)、「運動」(51.3%)、「禁煙・減煙」(24.1%)となっている。(報告書P143)



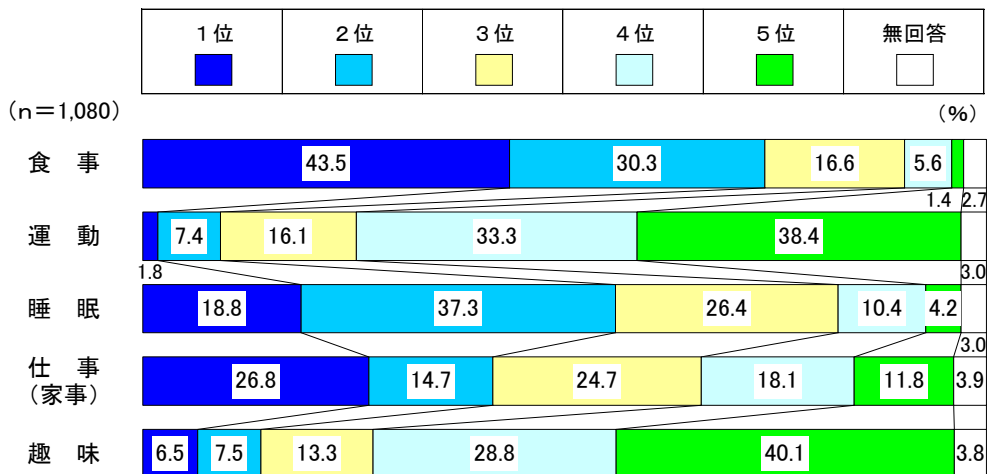
最近2週間の睡眠の状態

ぐっすりと休め、気持ちよく目覚めたかは、「いつもそうだった」(12.5%)は1割を超え、「そういう時が多かった」(39.4%)は約4割となっている。一方、「そういう時は少なかった」(41.4%)は4割を超え、「全くなかった」(4.9%)は1割未満となっている。(報告書P152)



食事・運動・睡眠・仕事（家事）・趣味の優先順位

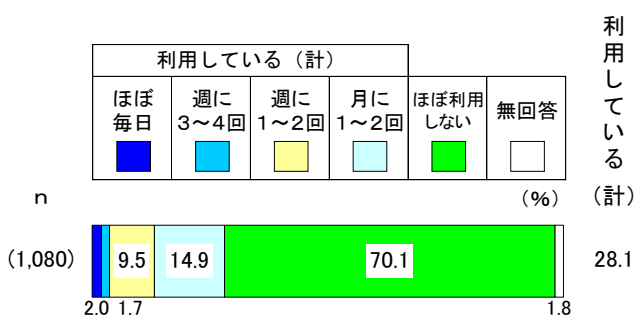
1位では「食事」(43.5%)が4割を超えて最も高く、次いで「仕事（家事）」(26.8%)、「睡眠」(18.8%)となっている。一方、5位では「趣味」(40.1%)が4割で最も高く、次いで「運動」(38.4%)、「仕事（家事）」(11.8%)となっている。(報告書P146)



公園整備について

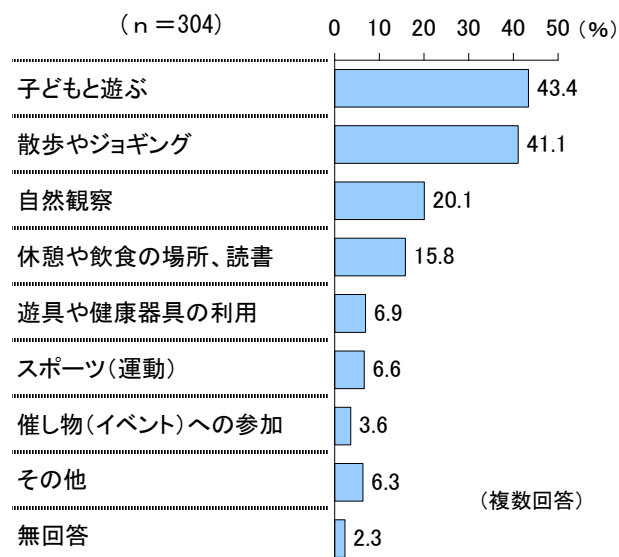
公園の利用頻度

「ほぼ毎日」(2.0%)、「週に3～4回」(1.7%)、「週に1～2回」(9.5%)、「月に1～2回」(14.9%)を合わせた『利用している(計)』(28.1%)は3割近くとなっている。一方、「ほぼ利用しない」(70.1%)は7割となっている。(報告書P155)



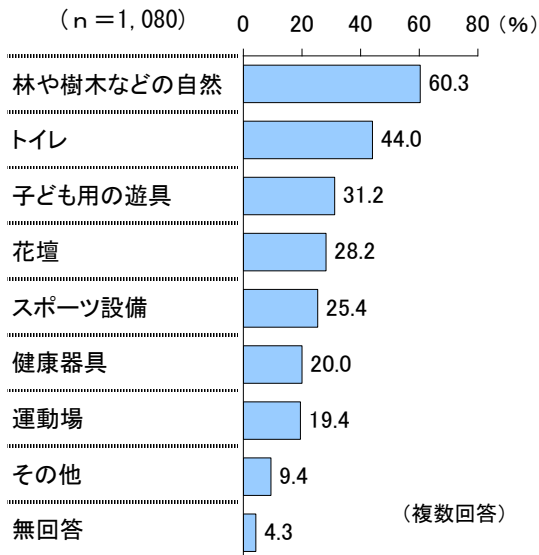
公園を訪れる目的

「子どもと遊ぶ」(43.4%)が4割を超えて最も高く、次いで「散歩やジョギング」(41.1%)、「自然観察」(20.1%)、「休憩や飲食の場所、読書」(15.8%)となっている。(報告書P157)



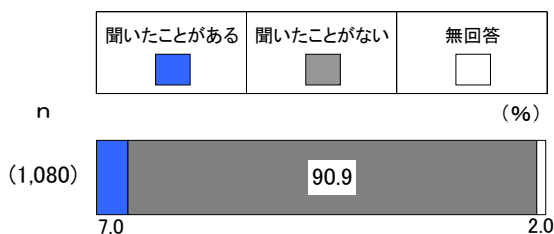
公園に望む施設

「林や樹木などの自然」(60.3%)が6割で最も高く、次いで「トイレ」(44.0%)、「子ども用の遊具」(31.2%)、「花壇」(28.2%)となっている。
(報告書P159)



「まちのひろば」の認知度

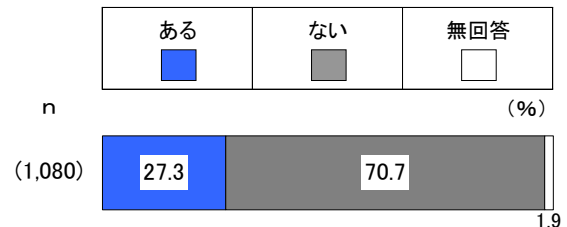
「聞いたことがある」(7.0%)が1割未満、「聞いたことがない」(90.9%)は約9割となっている。
(報告書P163)



地域におけるつながり・コミュニティについて

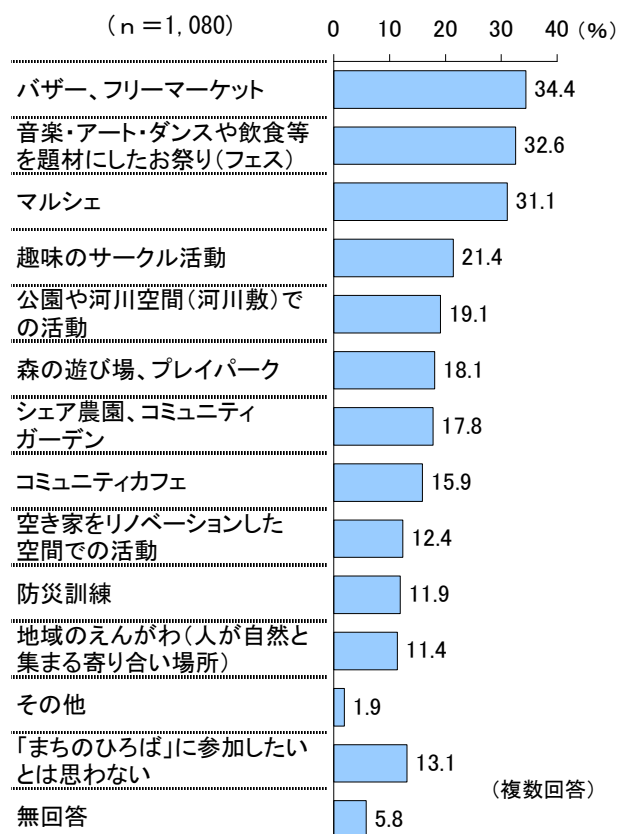
気軽に人とつながることのできる場所や活動

「ある」(27.3%)が3割近く、「ない」(70.7%)は約7割となっている。(報告書P161)



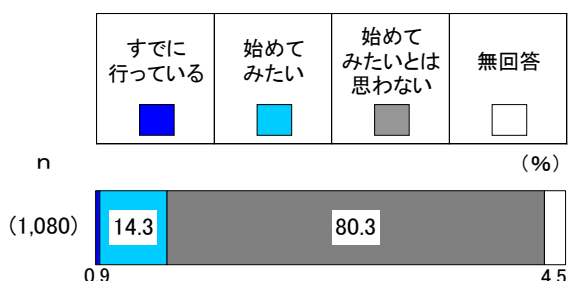
参加してみたいと思う「まちのひろば」

「バザー、フリーマーケット」(34.4%)が3割半ばで最も高く、次いで「音楽・アート・ダンスや飲食等を題材にしたお祭り(フェス)」(32.6%)、「マルシェ」(31.1%)、「趣味のサークル活動」(21.4%)となっている。(報告書P165)



「まちのひろば」を始めてみたいか

「すでに行っている」(0.9%)はわずかとなり、「始めてみたい」(14.3%)は1割半ばとなっている。一方、「始めてみたいとは思わない」(80.3%)は8割となっている。(報告書P167)



気軽に集える場所・活動を始める (続ける)にあたり望むこと

「ノウハウがないので、詳しい人に話を聞いてみたい」(48.8%)が5割近くで最も高く、次いで「イベント情報などを気軽に発信・共有できる場所が地域にあるとよい」(46.3%)、「活動する場所がないので、活動場所を提供できる人を紹介してもらいたい」(22.0%)、「活動資金が不足しているため、資金確保の方法を教えてください」(18.9%)となっている。(報告書P169)

